

# 拘置所のタンポポ

日本ダルク代表 近藤恒夫 著



近藤恒夫さんの新刊をご紹介します。近藤さんは元覚せい剤依存者でしたが、今は日本ダルク代表として薬物依存者の再起のために尽力なされています。

薬物汚染は一般市民社会にもじわじわ広がりつつあります。しかし国は、ごく普通の市民がなぜクスリに走ってしまうのかを根本からとらえようとせず、相変わらず「ダメ、絶対」を繰り返し、また薬物に依存してしまう人々を刑罰で戒めるだけです。しかし、それでは何の解決にもなりません。

著者は「墮落と再起」の自らの半生を語り、一般人が知らない薬物汚染の実態を語り、酒井法子事件を材料として、人はなぜクスリに走るのか、どうすれば再起できるのか、そして我々は何をなすべきかを語り、依存症国家・日本への警鐘を鳴らします。人はいかに弱く、しかし、いかに素晴らしいかを教える感動の書です。

書名は、拘置されていた札幌拘置所で、雪にも負けずにけなげに咲いていたタンポポを見つけて再起を誓ったというエピソードにもとづいています。ぜひご一読ください。

## 目次

- プロローグ のりピー、うち(ダルク)へおいでよ
- 第1章 絶頂からの転落～そして再起 わが波乱の半生
- 第2章 誰が、なぜ、ヤク中になるのか
- 第3章 あまりに知られていない覚せい剤
- 第4章 なぜ薬物依存者は立ち直りにくいのか
- 第5章 立ち直るためにはどうすればよいのか
- 第6章 新生した仲間たち
- エピローグ 私たちの未来

## 近藤恒夫さんのプロフィール

1941年秋田県生まれ。日本ダルク代表。

72年、覚せい剤におぼれ、78年、精神病院に入院、80年に覚せい剤取締法違反で逮捕、札幌地裁で有罪判決を受ける。

再起を誓い、85年、薬物依存者のための日本初の民間リハビリセンター「ダルク」を創設。薬物依存者の社会復帰を応援する一方、啓蒙活動を続けてきた。アジア太平洋地域の国々の依存症問題に取り組むNPO法人「アパリ」も創設(理事長)。95年、東京弁護士会人権賞受賞、2001年、吉川英治文化賞を受賞。

発売：双葉社

定価：1400円＋税 四六判 軽装 224ページ

お問合せ：双葉社・営業部 電話 03-5261-4818

本書のご注文には次の2つの方法をお薦めします。

### ブックサービスのご利用

宅急便(クロネコヤマト)でご自宅までお届けします。電話番号0120-29-9625(フリーダイヤル)へお申し込みください(携帯電話からは0570-03-9625、または03-6739-0711へ。電話代は有料)。通常、お申し込み後2日から7日前後で届きます。ただし、送料、手数料がかかります。

**書店へのご注文** このチラシをお持ちください(本が届くまでに多少時間がかかることがあります)